

ユーザース・マニュアル

MINILAB_{mkII}
UNIVERSAL MIDI CONTROLLER

ARTURIA[®]
YOUR EXPERIENCE • YOUR SOUND

スペシャルサンクス

ディレクション

Nicolas Dubois

Sebastien Colin

Frédéric Brun

プログラミング

Dew Zhang

Sebastien Colin

インダストリアライゼーション

Nicolas Dubois

マニュアル

Randy Lee

Germain Marzin

Tomoya Fukuchi

Sébastien Rochard

Morgan Perrier

デザイン

Glen Darcey

Sébastien Rochard

Axel Hartmann

© ARTURIA SA - 2017 - All rights reserved.

11 Chemin de la Dhuy

38240 Meylan

FRANCE

www.arturia.com

本マニュアルに記載されている情報は予告無しに変更される場合があります、Arturia側の関与を意味しません。本マニュアルに記載されているソフトウェアは、ライセンス契約、または非公開契約の条項の下に提供されています。ソフトウェア使用許諾契約書には、合法的な使用の条件が規定されています。本書のいかなる部分もARTURIA S.A.の書面による明確な許可なく購入者の個人的な使用以外のいかなる形態、またはいかなる目的でも複製、送信することはできません。

本マニュアルで引用されているその他の製品、ロゴ、会社名はそれぞれの所有者の商標、または登録商標です。

Product version: 1.0.7

Revision date: 14 March 2017

Arturia MiniLab mkIIをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます!

このマニュアルは、ArturiaのMiniLabMkIIの機能と操作について説明しています。本機は、お使いのDAWソフトウェアまたは、プラグインで動作するよう設計されたフルファンクションのMIDIコントローラーです。

 注： MiniLab IIは、弊社のAnalog Labソフトウェアを含むパッケージの一部ですが、このマニュアルでは、MiniLab IIコントローラーのハードウェアにのみ焦点を当てています。ソフトウェアの機能について知るには、Analog Labのマニュアルを参照してください。

このパッケージに含まれるもの：

- MiniLab mkIIキーボード・コントローラー ×1：底部にシリアルナンバーとアンロックコードが記載されています。
- USBケーブル ×1
- クイックスタートガイド：このシートにもユニットのシリアルナンバーが記載されています。
- Analog Lab Liteについてと、Analog Lab 2のフルバージョンにアップグレードする方法について記述されたカードこのカードには、UVIのGrand Piano・モデリングGrand Piano Model Dのコピーも含まれています。
- Ableton Live Liteの登録方法とダウンロード方法を記載したカード。

購入後は、できるだけ早くMiniLab mkIIを登録してください！ 底部にユニットのシリアルナンバーとアンロックコードを記載したステッカーがあります。これはオンライン・レジストレーションに必要です。この情報はクイックスタートガイドにも記載されています。

MiniLab mkIIを登録すると以下のような利点があります。：

- Ableton Live Liteをインストールするためのプロダクトライセンス・キー [下記参照]
- Analog Lab LiteとUVIのGrand Piano Model Dのダウンロード情報
- MiniLab mkIIユーザーマニュアルとMIDIコントロールセンター・ソフトウェアの最新バージョンへのアクセス方法
- MiniLab mkIIオーナー限定の特別オファー
- Ableton Live Liteのインストール・ファイルは以下の場所にあります。： ableton.com/live-lite

安全にご使用いただくための注意

仕様変更について： 本マニュアルに含まれる情報は、印刷した時点で正しいと思われるものです。しかし、Arturiaは仕様更新に伴う内容の変更、修正等を事前の告知なく行う場合があります。

重要： 感電、破損、火事あるいは他の危険からの大怪我や死に至る可能性を回避するために下にリストアップされている基礎的な注意事項に常に従ってください。 本機は、ヘッドフォンとスピーカーの両方、またはどちらか一方を使用して、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定出来る場合があります。そのような大音量や不快に感じるほどの音量で長時間本機を操作、演奏しないでください。 難聴、もしくは耳鳴りなどを自覚した場合には、直ちに専門家の診断を受けてください。

注意： 知識の不足による、誤った操作から発生する問題に対してのサポートは、保証の対象外となり、料金が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、販売店とご相談の上、サポートを要求することを勧めます。

注意事項としては以下を含みますが、これらに限定されるものではありません。：

1. 取扱説明書を良く読んで、理解してください。
2. 楽器本体に表示されている指示に従ってください。
3. 楽器や周辺機器を清掃する場合は、まず電源やUSB等全てのケーブルを外してください。また、清掃の際は、乾いた柔らかい布を使用してください。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン油その他有機溶剤は使用しないでください。液体クリーナー、スプレー洗剤、濡れ布巾なども使用しないでください。
4. 楽器を浴室やキッチン、プールなど水気の多い湿った場所で使用しないでください。
5. 楽器を落下の危険性がある、不安定な場所に置かないでください。
6. 楽器の凹みを埋めたり、穴や隙間を塞がないで下さい。これらは、加熱から本体を守るための空気の循環用のものです。また、楽器を発熱体の近くや、風通しの悪い場所に置かないで下さい。
7. 楽器の筐体を開けたり、異物を挿入したりしないで下さい。火災や感電の原因になります。
8. いかなる液体も楽器に吹き付けしないで下さい。
9. 修理の際は正規サービスセンターに持ち込んで下さい。自身で蓋を開けたりカバーを開けると、保証の対象外となります。不正な調整は、故障や事故の原因になります。
10. 雷発生時には、楽器を使用しないで下さい。距離が離れていても感電の恐れがあります。
11. 楽器を直射日光に当てないでください。
12. ガス漏れが発生している場所付近で楽器を使用しないで下さい。
13. Arturiaは本製品の不適当な使用方法に起因する故障、破損、データ損失にも責任を持ちません。

もくじ

1. はじめに.....	3
2. MINILAB MK IIについて.....	4
2.1. ファーストステップ：接続を行う.....	4
2.1.1. フロントパネル.....	4
2.1.2. キーボード.....	5
2.1.3. ピッチ&モジュレーション・タッチストリップ.....	6
2.1.4. シフト&パッドバンク・ボタン.....	6
2.1.5. オクターブ・ボタン.....	6
2.1.6. エンコーダー.....	7
2.1.7. パッド.....	7
2.2. リアパネル.....	7
2.2.1. フットスイッチ・ジャック.....	8
2.2.2. USBジャック.....	8
2.2.3. 盗難防止ロック用ポート.....	8
2.3. ファクトリー・リセット.....	8
3. MINILAB MKIIとANALOG LAB LITEの使用方法.....	9
3.1. オーディオ&MIDIセットアップ.....	9
3.1.1. オーディオセットアップ.....	9
3.1.2. MIDIセットアップ.....	9
3.2. プリセット・選択.....	10
3.2.1. プリセット #1 + Analog Lab Lite.....	10
3.2.2. Analog Lab Liteのプリセット選択.....	11
3.2.3. プリセット2-8.....	12
3.3. エンコーダーを使用する.....	12
3.4. パッドを使用する.....	13
3.4.1. ノートを演奏する（パッド1-8）.....	13
3.4.2. Analog Lab Liteのコントロール（パッド9-16）.....	14
4. MIDIコントロールセンター.....	9
4.1. ベーシック.....	18
4.1.1. 必要動作環境.....	18
4.1.2. インストールとロケーション.....	18
4.1.3. 接続.....	18
4.1.4. マニュアルを探す.....	19
4.1.5. ソフトウェアを使用する.....	19
4.1.6. 第二の機能.....	19
4.2. デバイスメモリー.....	20
4.3. テンプレート・ブラウザー.....	20
4.3.1. ドラッグ&ドロップ.....	21
4.3.2. テンプレートの修正.....	21
4.4. Store To/Recall From.....	21
4.4.1. 'Store To' ボタン.....	21
4.4.2. MiniLab MkIIからプリセットをリコール.....	22
4.4.3. セーブ、デリート、インポート/エクスポート、等.....	23
4.5. デバイス・セッティングのインポート/エクスポート.....	23
4.5.1. デバイスセッティングのエクスポート.....	23
4.5.2. デバイスセッティングのインポート.....	24
4.6. エディットのベーシック.....	24
4.6.1. データ入力.....	24
4.6.2. タブの選択.....	24
4.6.3. デバイスセッティング・タブ.....	25
4.7. デバイスセッティングの操作.....	25
4.7.1. キーボード・チャンネル.....	25
4.7.2. ノブ・アクセラレーション.....	26
4.7.3. キーベロシティ・カーブ.....	26
4.7.4. パッドベロシティ・カーブ.....	27
4.8. テンプレートのエディット：ユニークな機能.....	27
4.8.1. MIDI Channel セッティング.....	27
4.8.2. コントロールストリップ：ピッチベンド・ホールド.....	28

4.8.3. アサインブル・ペダル.....	29
4.8.4. モード・エンコーダー.....	30
5. ソフトウェア使用許諾書.....	31
6. Declaration of Conformity	33

1. はじめに

MiniLab mkIIは、Arturiaで最もコンパクトで機能の充実したUSB MIDI キーボード・コントローラーです。ソフトウェア・シンセサイザー との完璧なインテグレーションのために設計されたコントロール・サーフェスに沿って25鍵ベロシティセンシティブ・ミニキーボードを採用しています。他のソフトウェアやDAWで作業するにも最適になるよう細部まで拘って設計されています。

素晴らしいMIDIコントローラーのMiniLab mkIIには、クラシックなシンセとキーボード・サウンドの驚異的な武器を含む弊社のAnalog Lab ソフトウェアが付属しています。優れた機能と優れたサウンドを兼ね備えた強力なハイブリッド・シンセサイザーの2つでこの結果をインテグレートします。

Analog Lab LiteをフルバージョンのAnalog Labに手ごろな価格でアップグレードする方法もあります。これはAnalog Lab Liteよりも数千以上多くのサウンドにアクセスできるようになります。アップグレードについては、以下のURLにアクセスしてください。 www.arturia.com/analoglab-update.

MiniLab mkIIは革新的なピッチとモジュレーション・タッチストリップも備えています。これらの表現力を維持したまま、伝統的なホイールを超える感覚を提供する薄型コントローラーです。ピッチストリップは、最後に“last position hold”、または“return to zero”モードから動作を選択することができます。

16このアサインابل・エンコーダーは、任意のUSBオーディオプロダクトの可能性を最大限に活用することが可能になります。さらに大きなフレキシビリティのためにアサインابل・ペダル入力ジャックも備えています。

8個のパッドの2つのバンクで合計16個分使用でき、パッドをMIDI CCボタンや、プログラムチェンジ・スイッチとして容易にアサインすることができます。これらは、各機能の視覚的なフィードバックをえるために、またはシンプルに楽しさのために、異なるカラーをアサインすることが可能です。またプレッシャーセンシティブなため、より豊かな表現を手に入れることも可能です。

それに加え、同梱されているMIDIコントロールセンター・ソフトウェアを使用して直接コンピュータからパラメーターをコントローラーやパッドにマップングしそれらを保存する事ができます。それらのプリセットはすぐにはリコールできるようMiniLab mkIIハードウェアに保存することができます。

移動中のミュージシャンや、限られたスペースの中で活動しているミュージシャンやパフォーマーのために設計され、よく考えられた頑丈なポータブル・パッケージによって、MiniLab mkIIは、より深い機能を提供します。

2. MINILAB MK IIについて

2.1. ファーストステップ：接続を行う

Analog Labで使用するためにMiniLab mkIIキーボードの設定を行うのはとても簡単です。：

1. はじめに、お使いのコンピュータにAnalog Lab Liteをインストールし、レジストレーション、オーサライズを行なってください。（Analog Labのユーザーマニュアル第2、3章を参照してください）
2. MiniLab mkIIキーボードを接続します。MiniLab mkIIは、USB接続によって電源を供給されるので、コンピュータとMiniLab mkIIをUSBケーブルによって接続してください。
3. コンピュータがMiniLab mkIIを接続すると自動的にドライバーがインストールされます。
4. Analog Lab Liteソフトウェアを起動して、先に読み進めてください！

2.1.1. フロントパネル



フロントパネル

1. **シフトボタン**：シフトを押すとパッドの1つが点灯し、選択中のメモリーを表示します。
 - シフトを押しながらパッドを押してメモリーを選択可能です。
 - シフトを押しながら鍵盤を押してMIDIチャンネルを選択可能です。
 - シフトを押しながらエンコーダー1、または9を回して別のMIDI CC値を入力可能です。
 - シフトを押しながらOct+とOct-を同時に押すと“オールノート・オフ”、“リセット・オールコマンド”がMIDIで送信されます。
2. **パッド 1-8 / 9-16ボタン**：パッドバンク1-8、9-16にアクセスするために使用します。
3. **オクターブ- / +ボタン**：キーボードレンジを+/- 4オクターブでトランスポートします。センターのレンジにリセットする場合、両方のボタンを一度に押してください。
4. **ピッチ/Modタッチストリップ**：ピッチベンドとモジュレーションは、タッチストリップを押して使用します。“Return to Zero”、または“Hold”の設定は、MIDIコントロールセンター・ソフトウェアを使用して選択することができます。
5. **エンコーダー1 and 9**：Analog Lab Lite：エンコーダー1を回してクリックすると、検索フィルターが選択されます。エンコーダー9を回してクリックするとプリセットが選択されます。他のソフトウェアで使用するには、MIDIコントロールセンターでアサインを変更します。
6. **エンコーダー2-8 & 10-16**：Analog Lab Liteのメモリー#1は、これらのエンコーダーでAL Liteのパラメーターをコントローラーできるように事前に設定されています。他のソフトウェアで使用するには、MIDIコントロールセンターでアサインを変更します。
7. **パッド1-8 / 9-16 Analog Lab Lite**：パッド 1-8のノートを再生します。；パッド9-16で様々な機能をコントロールすることができます。他のソフトウェアで使用するには、MIDIコントロールセンターでパッドのアサインを変更します。
8. **MIDIチャンネル選択キー**：シフト・ボタンを押し、次にキーの1つを押してMiniLab mkIIの使用するMIDIチャンネルを選択します。

注：他のソフトウェアでは、MIDIコントロールセンターを使用してアサインを変更します。

2.1.2. キーボード

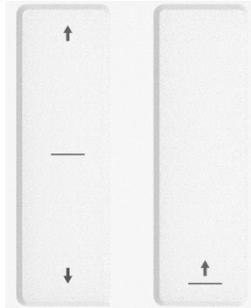
MiniLab mkIIは、Analog Labソフトウェアで完全に統合してコントロールするために設計されたコントロール・サーフェスを備えた25鍵のペロシティセンシティブ・スリムキーボードを備えています。

2.1.3. ピッチ&モジュレーション・タッチストリップ

ピッチバンド・ストリップの中心に触れ、前方、または後方に指を動かすと演奏しているサウンドのピッチを変更します。ピッチバンドの範囲は、選択されたプリセットの設定によって異なります。

同様にモジュレーション・ストリップに沿って指を動かすと、演奏しているサウンドのモジュレーション量を変更します。モジュレーション・ストリップをアクティブにすることで得られるモジュレーションのレベルは選択したプリセットに依存します。

注意：モジュレーション・ストリップは、いくつかのAnalog Lab Lite プリセットのパラメーターを調節するために割り当てることができない場合があります。



2.1.4. シフト&パッドバンク・ボタン

右側：パッド1-8 / 9-16ボタンは、2つの異なる機能セット間でMiniLab mkIIのパッドを切替えます。ノートを演奏したり、Analog Lab Liteをコントロールすることができます。

シフトボタンの用途：メモリーからプリセットをリコール（シフト+パッド）、マスターMIDIチャンネルの選択（シフト+キーボード）、エンコーダー1&9がMIDIコントロールセンターで設定したMIDI CCナンバーやNRPN/RPNコマンドを送信できるようにします。



2.1.5. オクターブ・ボタン

上下のボタンのどちらかを押しと、最大で4オクターブ分上下にキーボードをトランスポーズします。キーボードがセンターから遠くにトランスポーズされた場合、ボタンの点滅がより速くなります。

キーボードのオクターブ・レンジをリセットするには、両方のボタンを同時に押ししてください。



2.1.6. エンコーダー

16個のエンコーダーは、選択したデバイス上の任意のエディット可能なパラメーターをコントロールするために割り当てることができます。エンコーダー1と9は、クリック可能で、プリセットされた各メモリー内のいくつかの機能に対応可能です。

各Analog Labのプリセット内の各シンセサイザータイプによって割り当てられているパラメーターが異なる場合があります。



2.1.7. パッド

MiniLab mkIIのフロントに配置された8個の大きなボタンは2つの大きな目的を果たします。その違いは、シフト・キーとパッド・ボタンの状態によって決定します。

例えば：パッドは、16個までの特定のMIDIノート（ドラム、ストップ、ベース等、なんでも）をトリガーすることができます。パッド・ボタンが消灯している場合、パッドは最初のバンク（1-8）がアクティブになっています。パッド・ボタンが点灯している場合、パッドはセカンド・バンク（9-16）がアクティブになっています。

Analog Lab Lite でMiniLab mkIIを使用する場合、パッド1-8は、MIDIノートを再生し、パッド9~16は、様々な機能をコントロールします。例えば、検索フィルターをクリア、次/前のプリセットを選択、マルチパート間でのエンコーダーの切替えに使用します。

シフトキーを押しながらパッドの1つを押すと、内蔵メモリーの8つのプリセット内から1つを選択します。



パッド

2.2. リアパネル



Rear View

MiniLab mkII のサイドパネルには、フットスイッチ・ジャックとUSBタイプBジャック、盗難防止スロットなどの重要なコネクターがあります。

2.2.1. フットスイッチ・ジャック

フットスイッチ・ジャックの機能は、オン/オフ・スイッチと瞬間的なアプリケーション（サスティン・ペダルなど）や、ラッチ操作（初回/リリースで1つのイベントを送信し、2回目のプレス/リリースでは、次のイベントを送信）のどちらかに設定することができます。

ペダルの極性を感知できるよう、電源をオンにする前にペダルを接続しておくことをお勧めします。最初に接続するときはペダルから足を離してください。この場合、一度電源を外してやり直してください。

2.2.2. USBジャック

USBジャックを使用してMiniLab mkIIとコンピューターを接続し、お使いのDAWやプラグイン・インストゥルメントと一緒に使用することができます。

2.2.3. 盗難防止ロック用ポート

リアパネルの左側にセキュリティのためのKensingtonセキュリティロック・ポートを追加しています。これは、お望みの場所にMiniLab mkIIを正しくセッティングするために役立ちます。

2.3. ファクトリー・リセット



この手順は、すべてのプリセットとデバイス設定が消去され、デフォルトに戻ります。最初にMIDI Control Centerソフトウェアを使用して変更をバックアップしておいてください。

MiniLab mkIIを工場出荷時の設定にリセットするには：

- キーボードの背面からUSBケーブルを抜いてください。
- Oct -とOct +ボタンを同時に押したままにしてください。
- USBケーブルを差し込み、パッドが白くなるまでボタンを押し続けてください。

パッドが2秒間白い色のままになり、リセット・プロセスが進行中を示します。このあと、MiniLab mkIIは通常の電源投入時の点灯シーケンスを実行します。

3. MINILAB MKIIとANALOG LAB LITEの使用法

この章では、MiniLab mkIIキーボードでどのようにAnalog Lab Liteソフトウェアと組み合わせて使用する方について説明します。その結果、MiniLab mkIIがコントロールする様々なAnalog Lab Liteのパラメーターについて簡単に触れます。Analog LabLiteについての詳細は、Analog Labのユーザーズマニュアルを参照してください。

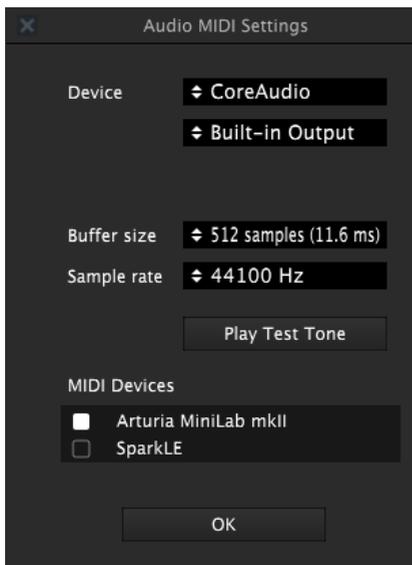
3.1. オーディオ&MIDIセットアップ

Analog Lab Liteを起動した後、最初に行うことは、ソフトウェアがMiniLab mkIIからのMIDIを受信し、正常に出力オーディオに設定されているかを確認することです。

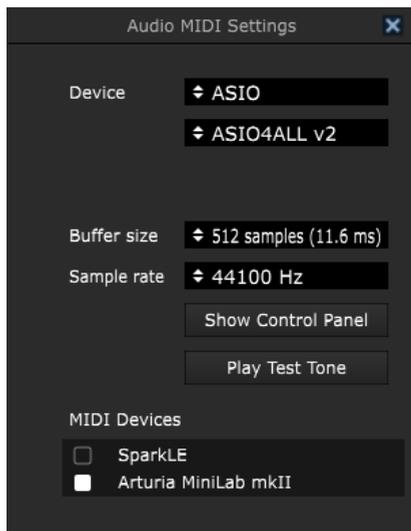
3.1.1. オーディオセットアップ

Analog Lab Liteのオーディオドライバーの設定を確認するには、Analog Lab Liteドロップダウンメニューから、またはコマンド・キー + “、”を押して“環境設定”を開いてください。

これは、オーディオ&MIDIセッティングウィンドウを開き、好ましいオーディオ出力デバイスを選択します。“Play Test Tone”ボタンをクリックし、サイン波の音を確認できた場合は出力の設定が正しく行われています。音が出なかった場合、正しいオーディオドライバーが選択されているか、スピーカー、またはヘッドフォンが接続されているか確認してください。



Mac OS X



Windows

3.1.2. MIDIセットアップ

USB MIDIコントローラーとAnalog Lab Liteを接続することはとても簡単です。前述の3.1.1で説明したように、Analog Lab Liteドロップダウンメニューから、またはコマンド・キー + “、”を押して**オーディオセットアップ・セクション** [p.9]ウィンドウを開いてください。

オーディオ&MIDI設定ウィンドウには“MIDIデバイス”というラベルの付いたセクションがあります。“Arturia MiniLab mkII”の横にあるボックスをクリックしてください。これでAnalog Lab LiteのコントローラーとしてMiniLab mkIIが設定されました。

3.2. プリセット・選択

3.2.1. プリセット #1 + Analog Lab Lite

MiniLab mkIIの電源を初めて入れると、内蔵メモリーからプリセット#1がロードされます。このプリセットは、特にAnalog Lab Liteと連携ができるよう設定されています。

プリセット#1のコントロール・アサインは、Arturiaのソフトシンセ内のパラメーターに対応しているので、このコンビネーションでは、僅かなセットアップしか必要ありません。これは、必要なサウンドを正確に得て、それを使って音楽を作り始めるために非常に素早い方法です。

新しくAnalog Lab Liteプリセットを選択する度に、コントロール・アサインが変更される可能性があります。これは、そのプリセットの基になっているシンセサイザーで使用可能なパラメーターが異なる可能性があるためです。

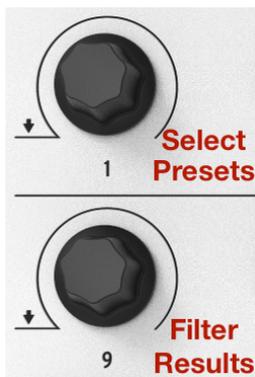
3.2.2. Analog Lab Liteのプリセット選択

Analog Lab Lite内でMiniLab mkIIを使用してプリセットを選択するには、2つの方法があります。：

3.2.2.1. エンコーダー1と9

Analog Lab Liteのプリセット・リストを素早くスクロールするには、シンプルにエンコーダー1を回してください。お好みのプリセットが表示されたらエンコーダーをクリックして選択することができます。

プリセット・リストを絞り込むには、エンコーダー9を使用してプリセットのフィルター・キャラクターの1つにスクロールし、エンコーダーをクリックしてください。必要な数のフィルターを有効にすることが可能です。残った選択肢は、エディター・ウィンドウの中央にあるリザルト・リストに表示されます。



Analog Lab Liteのエンコーダー1&9

パッド14をタップするとプリセット・フィルターの選択をクリアします。

3.2.2.2. パッド15&16

まだ点灯していない場合、パッド1-8 / 9-16ボタンを押してパッド9-16にアクセスしてください。パッド15は前のプリセットを選択肢、パッド16は次のプリセットを選択します。



パッド14-16はAnalog Lab Liteの機能をコントロールします。

3.2.3. プリセット2-8

残りの7つのMiniLab mkIIプリセットは、DAWやプラグインなど、他のソフトウェア・アプリケーションで動作するように設定することができます。プリセット・の1つを選択するにはシフト・ボタンを押しながら適切なパッドを押してください。

3.3. エンコーダーを使用する

Analog Lab Liteを起動してオーディオ&MIDI設定を正しく設定したら、プリセットリストからサウンド、またはマルチを選択して演奏を開始することができます。MiniLab mkIIの各エンコーダーは、すぐにそれらのアサインされたパラメーターを想定し、それぞれのプリセットのエディットを行うことができるようになります。

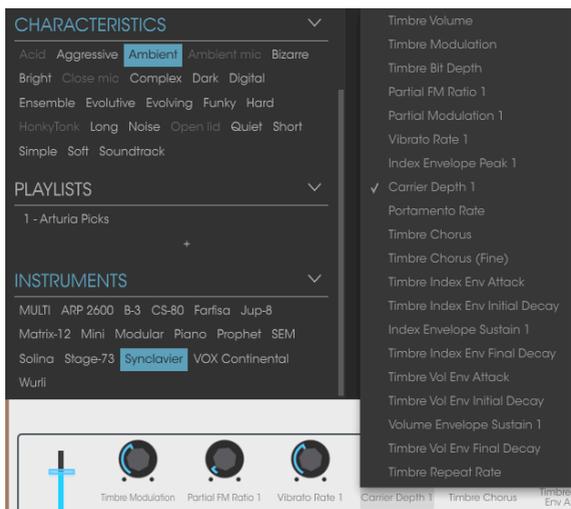
バーチャルMiniLab mkIIには物理キーボードのように16個ではなく、14個のエンコーダー（2行×7個）があります。これはエンコーダー1と9はAnalog Lab Lite内の他の機能に専有されているためです。：

- エンコーダー1： キャラクターを選択して、リザルトリストをフィルタリングする（スクロールした後にクリックして選択）
- シフト + エンコーダー1： マスターボリューム・パラメーター
- エンコーダー9： リザルトリスト内のプリセットを選択（スクロールした後にクリックして選択）



シフト + エンコーダー 1 は、Analog Lab Liteのマスターボリュームをコントロール

Analog Lab Liteを使用する場合、エンコーダーと9の機能は固定されています。しかし、バーチャル・エンコーダーの下のパラメーター名をクリックして表示されるメニューによって他のすべてのエンコーダーのパラメーター・アサインを変更することは可能です。



バーチャルエンコーダーにパラメーターのアサイン

上図では、4番目のバーチャル・エンコーダーが再アサインするために選択されています。エンコーダー#1は、他の機能は固定されているので、このエンコーダー、実際には物理エンコーダーの#5に対応しています。

新しいプリセットを選択するたびに、コントロールのアサインが変更される場合があります。これは、そのプリセットがベースとなるシンセサイザーによって使用するパラメーターが異なる場合があるためです。

プリセットのエディットに関する詳細な記述は、Analog Labのユーザーズマニュアルを参照してください。

3.4. パッドを使用する

Analog Lab Liteでアクティブなサウンドを選択するとMiniLab mkIIのパッドで演奏することができます。それはパッド1-8/9-16ボタンの状態に依存します。

3.4.1. ノートを演奏する（パッド1-8）

MiniLab mkII のパッド1-8 / 9-16ボタンが消灯している場合、パッド1-8が有効になります。パッドを演奏すると、選択したシンセサイザーでプレーしたノートが聞こえます。レンジはMIDIノート#36（パッド1）からノート #43（パッド8）までです。

Analog Lab Liteのプリセットは、変更できないため、これらのパッドのMIDIノートはメモリー #1にアサインできません。しかし、プリセット2-8はエディットすることが可能です。

3.4.2. Analog Lab Liteのコントロール (パッド 9-16)

パッド9-16を選択している場合、ほとんどのパッドはAnalog Lab Liteを最大限に活用するための専用機能を備えています。それらを使ってみましょう。

3.4.2.1. パッド 9-11：マルチのみ

パッド9-11でできることを理解するには、まず、Analog Lab Liteのマルチを選択する必要があります。マルチとは、レイヤー、またはスプリットの2つのプリセットを組み合わせたものです。1つを選択するもっともはやい方法は、インストールメント・ウィンドウ内でマルチフィルターを有効にすることです。エンコーダー9を使用してMULTIという単語までスクロールした後、クリックしてください。：



エンコーダー1を使用して、リザルト・ウィンドウからマルチを選択してください。

その後、バーチャルキーボードの上に表示される異なるタブを選択するためにパッド9-11を使用することができます。：



- パッド9を使用してパート1タブを選択
- パッド10を使用してパート2タブを選択
- パッド11を使用してパートLIVEタブを選択

タブを選択すると各エンコーダーの下にアサインしたラベルが表示されます。パート1とパート2のエンコーダーはそれぞれのパートのパラメーターをコントロールします。ライブエンコーダーは、両方のパートに共通のパラメーターを含むマクロをコントロールします。

次の2つの項目でそれぞれのタブについて簡単に説明します。詳しくは、Analog Lab Liteのマニュアルを参照してください。

パート1 / パート 2 タブ

これらのタブは、エンコーダーが異なるラベルを持っていても基本的には同じです。そのため、1つのスクリーンショットを使用してそれらを表現します。：



パート2タブが選択されたマルチ

パート1とパート2のタブは、ライブ・タブと大きく異なる点が1つあります。：エンコーダーごとに1つのパラメーターをコントロールします。ライブ・タブではそれ以上のことが可能です。

ライブ・タブ

一見するとライブ・タブは他の2つのタブと同じように見えますが、各エンコーダーの下にラベルがあります。：



エンコーダー6-8と14-16は、パート1と2の場合と同じように動作します。：エンコーダー毎に1つのパラメーターです。そのラベルをクリックし、コントロールするパラメーターを選択することができます。

しかし、エンコーダー2-5と10-13は異なります。他のパラメーターを選択するのと同じようにエンコーダーのラベルの1つをクリックしてください。



マクロは一度に最大4種類のパラメーターをコントロール可能です。

メニューを表示する代わりにエンコーダーが実際に2つのパートのいずれかが、4種類のパラメーターを実際にコントロールしていることを別のウィンドウによって表示します。

マクロをエディットする手順を簡単に見てみましょう。詳細については、Analog Lab Liteのマニュアルを参照してください。

マクロを選択する

エディットしたいマクロの下ラベルをクリックしてください。すでにアサインされているパラメーターがあるものと無いものを含む4種類のエンコーダーが表示されます。：



ここでマクロに名前を付け、コントロールするパラメーターをを選択し、コントロール量（ポジティブ/ネガティブ）を設定することができます。個々のパラメーターを有効、または無効にするにはアサインをクリックしてください。パラメーターの選択をクリアするにはXをクリックしてください。

パラメーターを選択する

上から2番めのフィールドをクリックすると、サブウィンドウが開きます。パート1、パート2、またはライブタブのパラメーターをコントロールするか指定することができます。



上から2番目のフィールドをクリックするとサブウィンドウが開きます。パート1、パート2、またはライブタブのパラメーターをコントロールするかどうかを指定することができます。

マクロに名前を付ける

大きい緑のフィールドをクリックすると、マクロに適切な名前を付けることができます。エンター・キーを押すと、名前がマクロ・エンコーダーの下に表示されます。



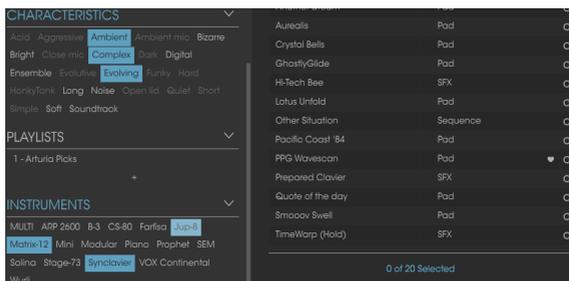
そのパラメーターのコントロールを有効にするには、必ずアサインをクリックしてください。Xをクリックしてパラメーターの選択をリセットし、最初からやり直してください。

3.4.2.2. パッド12-13：アサインなし

これらのパッドはアサインせずにしています。

3.4.2.3. パッド14: すべてのフィルターをクリアにする

特定のタイプのサウンドを探す場合に、エンコーダー9を使用していくつかのキャラクターを指定することが可能です。以下の例では、Arturiaの3種類のインストゥルメントから“ambient”、“complex”、“evolving”をキーワードにサウンドを探しています。：



リザルト・ウィンドウで探しているプリセットが表示されている場合は、エンコーダー #1 を選択してクリックしてください。

フィルターをクリアしてやり直すにはパッド14をタップしてください。

3.4.2.4. パッド15-16：Next/Previousプリセット

Analog Lab Liteがアクティブなときは、パッド15と16を使用してプリセットを素早く選択することができます。それらは、ウィンドウの上部にある左右の矢印に接続されています。

これらは、リザルト・ウィンドウを確認する時ができ、スタジオ・ビューを隠した時に分かりやすくなります。

パッド15をタップしてリザルト・リストの前のプリセットを選択します。パッド16をタップしてリザルト・リストの次のプリセットを選択します。

4. MIDIコントロールセンター

4.1. ベーシック

MIDIコントロールセンターは、MiniLab mkIIのMIDI設定を行うためのアプリケーションです。これはArturiaのデバイスのほとんどで動作可能なので、ソフトウェアの旧バージョンをお持ちの場合、MiniLab mkIIバージョンをダウンロードしてください。他のArturia製品と同様に動作します。

4.1.1. 必要動作環境

PC: 2 GB 以上のRAM ; CPU 2 GHz以上 (Windows 7以降)

Mac: 2 GB 以上のRAM ; CPU 2 GHz以上 (OS X 10.7以降)

4.1.2. インストールとロケーション

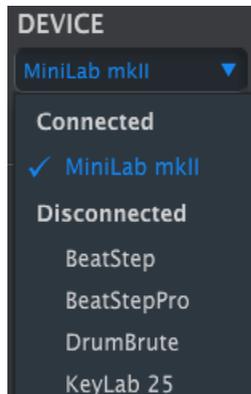
Arturiaのウェブサイトからお使いのコンピューターに適切なMIDIコントロールセンターをダウンロードしたら、ファイルをダブルクリックしてください。その後、インストーラーが起動したら支持したがつてインストールを行ってください。

インストーラーは、その他のArturiaアプリケーションと同じロケーションにMIDIコントロールセンターをインストールします。Windowsではスタート・メニューをチェックしてください。Macintosh OS Xでは、アプリケーション/Arturiaフォルダー内にインストールされています。

4.1.3. 接続

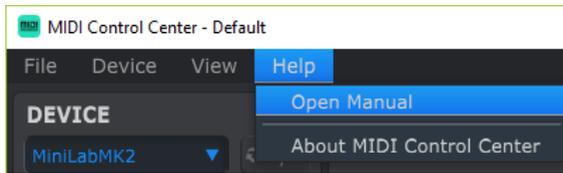
付属のUSBケーブルを使用してMiniLab mkIIをコンピューターに接続してください。すぐに使用準備が整います。

MIDIコントロールセンターを起動してください。MiniLab mkIIは接続しているデバイスのリストに表示されます。:



4.1.4. マニュアルを探す

以下に示すように、ヘルプ・メニューにMIDIコントロールセンター用のヘルプファイルが組み込まれています。：



これはMIDIコントロールセンターの解説をしており、ソフトウェア・ウィンドウの各セクションについて説明し、MIDIコントロールセンターの使用時に必要な用語について触れています。（ワーキング・プロジェクトやテンプレートなど）

次の章では、MIDIコントロールセンター・ソフトウェアを使用してMiniLab mkIIの設定を行ない、システムとマッチさせてワークフローを強化する方法について説明します。

4.1.5. ソフトウェアを使用する

MIDIコントロールセンター（以下、MCC）を起動する前にArturia MiniLab mkIIキーボードがコンピューターに接続されていることを確認してください。

内蔵されているMIDI Control Centerマニュアルには、すべてのArturia製品に共通する機能の一般的な説明が記載されています。マニュアルへのアクセス方法は、[マニュアルセクションのロケーション \[p.19\]](#)を参照してください。

この章では、MiniLab mkIIに特化したMCC機能についてのみ説明します。

4.1.6. 第二の機能

MCCとMiniLab mkIIを接続すると以下のことが可能になります。：

- テンプレート・ブラウザーのテンプレートの1つを内蔵メモリーのロケーションの1つにドラッグ&ドロップしてください。
- “Store To”と“Recall From”ボタンを使用してMiniLab mkIIとの間でテンプレートを転送することができます。
- デバイス設定のエディット（グローバル設定）
- ファイル管理やテンプレート作成など、その他のMCC機能を行います。

4.2. デバイスメモリー



デバイスメモリー・ウィンドウ

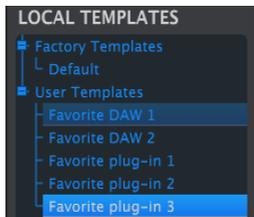
デバイスメモリー・ウィンドウには、MiniLab mk II内のプリセット・メモリーの数に対応する8つのメモリーロケーションがあります。

 メモリー#1は、Analog Lab Lite用に予約されており、変更することはできません。他の7つのメモリーはお好みに設定することが可能です。

4.3. テンプレート・ブラウザー

テンプレート・ブラウザーには、クライアント・センターで使用可能なすべてのテンプレートのリストが表示されています。これらはテンプレートの2つのグループ（ファクトリーとユーザー）に分かれています。

ユーザー・テンプレートはMCCのMiniLab mkIIからリコールしたテンプレートです。これを行う方法は、[Store to/Recall From](#) [セクション \[p.21\]](#)を参照してください。



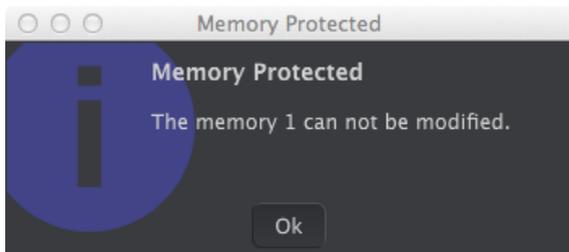
テンプレートには、コントローラーとパッドのすべての設定が含まれています。ユーザーテンプレート・エリアに無制限のセットアップ・ライブラリーを構築することができます。

 テンプレートにはデバイス設定は含まれません。これらを個別に保存する方法については、[セクション5.5](#)で説明しています。[デバイスセッティングのインポート/エクスポート \[p.23\]](#)を参照してください。

4.3.1. ドラッグ&ドロップ

1つのテンプレートをブラウザからメモリー・ロケーションにドラッグすることが可能です。そのテンプレートはその後、MiniLab mkIIの内蔵メモリーに送られ、そのロケーションを上書きします。

しかし、テンプレートをメモリー#1にドラッグしようするとエラーになります。これは、このプリセットがAnalog Lab Liteで使用するために予約されており、上書きすることはできません。



4.3.2. テンプレートの修正

MiniLab mkIIとMCCが接続されているかどうかに関わらず、アーカイブされたテンプレートの内容を編集することができます。テンプレート・ブラウザでテンプレートを選択するだけでそのデータがMCCエディター・ウィンドウに表示され、編集可能になります。

i 注： エディットを行なうと、テンプレート名の横にアスタリスク (*) が表示されます。新しく保存するには、“Save”または“Save As...” ボタンを使用して保存、または名前をつけて保存をしてください。

4.4. Store To/Recall From

4.4.1. ‘Store To’ボタン

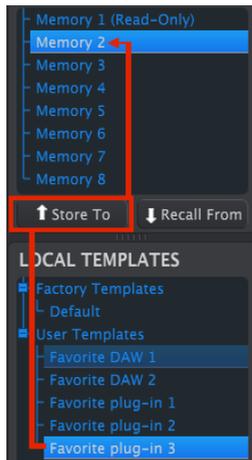
MIDIコントロールセンターの左側には、“Store To”というボタンがあります。それはテンプレートブラウザ・ウィンドウからMiniLab mkIIにテンプレートを送信するために使用します。

MiniLab mkIIに送信したい特定のテンプレートがある場合、テンプレートブラウザ・ウィンドウで選択してください。

i 次の手順はMiniLab mkIIの内蔵メモリーを上書きします。これらの設定がバックアップされているかどうか分からない場合は、Recall Fromボタンを使用してコンピューターにアーカイブしてください。

プロセスはシンプルです。：

- ローカルテンプレート・ウィンドウで目的のテンプレートを選択してください。
- デバイスメモリー・ウィンドウでディスティネーション・メモリーを選択してください。
- “Store To”ボタンをクリックしてください。

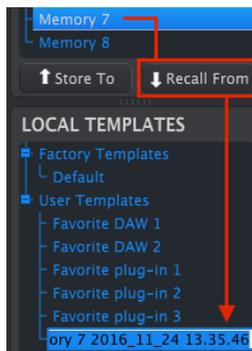


上記の例では、“Store To”をクリックすると、テンプレートがプリセットメモリー2としてMiniLab mkIIに保存されます。

4.4.2. MiniLab MkIIからプリセットをリコール

別のコンピューターを使用してMiniLab mkIIの設定を変更した場合、そのデータをMIDIコントロールセンターにバックアップする必要があります。その方法は：

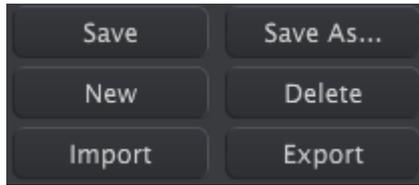
- デバイスメモリー・ウィンドウで目的のメモリーを選択してください。
- “Store To”ボタンをクリックしてください。



メモリー#7をMCCにリコール

選択したメモリーロケーションの設定を含む新しいファイルが、テンプレートブラウザーに日付/時刻スタンプを名称につけて表示されます。必要に応じて名称を変更することも可能です。

4.4.3. セーブ、デリート、インポート/エクスポート、等



これらの重要な機能は、ヘルプ・メニューからアクセス可能なMIDI Control Centerマニュアルに記載されています。Save (保存)、Save As... (名前をつけて保存)、NEW (新規作成)、Delete (削除)、Import (インポート)、Export (エクスポート) に関しては、ヘルプ・ファイルのセクション7.1を参照してください。

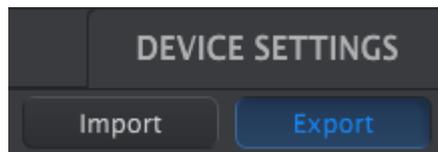
注: 上図のインポート/エクスポート・ボタンは、デバイスセッティング・ウィンドウの上部にあるものとは異なる機能を実行します。[デバイス・セッティング \[p.23\]](#)を参照してください。そのファイルは拡張子“.minilab_mkII”が付いています。これらは、MiniLab mkIIのメモリーのパラメーターのみが含まれています。他のユーザーと設定やシーケンスを共有したい場合はこのファイルを使用してください。

4.5. デバイス・セッティングのインポート/エクスポート

MCCウィンドウでデバイスセッティング・タブを選択すると右上にインポートとエクスポートという2つのボタンが表示されます。これらのボタンの機能は、デバイスセッティングのみを含むファイルを管理することです。これらは[セーブ、デリート、インポート/エクスポート \[p.23\]](#)で説明しているボタンとは異なり、デバイスセッティングとコントロールセンター・セッティングの両方を含むファイルを生成するために使用されます。

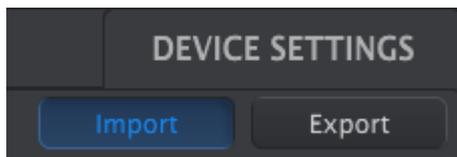
デバイスセッティング・ファイルには、.MiniLab mkII_dsという拡張子がついています。他のユーザーとこれらのファイルを交換したり、別の場所で使用する様々なシステムのためのセッティングのライブラリーを構築することができます。

4.5.1. デバイスセッティングのエクスポート



デバイス・セッティングをエクスポートするには、エクスポート・ボタンをクリックしてください。次に、.minilabmk2_ds ファイルを保存するためにコンピューター内の適切な位置にナビゲートするために画面が求めるように操作してください。

4.5.2. Iデバイスセッティングのインポート

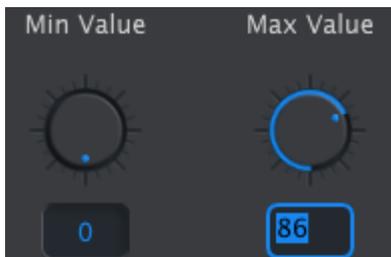


デバイス・セッティングをインポートするには、エクスポート・ボタンをクリックしてください。次に.minilabmk2_dsファイルを読み込むためにコンピューター内の適切な位置に移動して画面が求めるように操作してください。

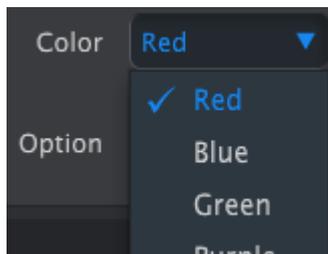
4.6. エディットのベーシック

4.6.1. データ入力

MIDIコントロールセンターには新しいパラメーターの値を入力するには2つの方法があります。：何かをクリックして移動したり、フィールドに数値を入力します。



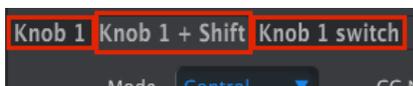
To edit a controller range value, for example, click and drag the knob graphic or double-click in the value field and enter a new value



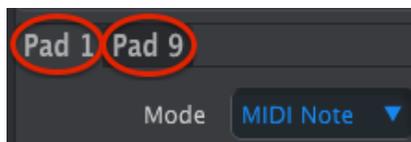
To edit a parameter such as a pad color, click its pull-down menu and make a selection

4.6.2. タブの選択

いくつかのノブとすべてのパッドには2つ以上のパラメーター・セットがあり、それらを選択し、独立して操作することができます。



ノブ1と9にはそれぞれ3つのタブがあります。

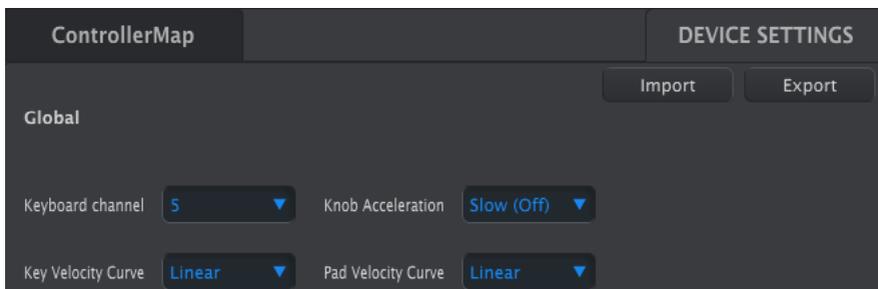


すべてのパッドには、16個のパッドすべてにアクセスする2つのタブがあります。

選択は、タブをクリックしてウィンドウと、そのウィンドウに含まれるパラメーターを選択するだけです。

4.6.3. デバイスセッティング・タブ

すべてのグローバル・パラメーターは、デバイスセッティング・タブにあります。それらを表示するには、ウィンドウの右上にあるタブをクリックしてください。



デバイスセッティング・メニュー

[デバイスセッティングの操作 \[p.25\]](#) でこれらのパラメーターについて説明しています。コントローラー・セッティングのエディットを再開するには、コントローラーマップ・タブをクリックしてください。

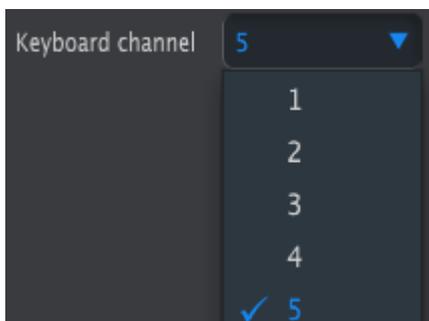
4.7. デバイスセッティングの操作

グローバル・パラメーターには、すべてに追加オプション付きのプルダウンメニューがあります。新しい値を選択するには、変更するパラメーターの横にある矢印をクリックしてください。

各フィールドのオプションは、パラメーター毎に異なるので、それぞれ個別に扱います。それぞれの設定を試して、ニーズに合ったものをご確認ください。

4.7.1. キーボード・チャンネル

これは、MCCでMiniLab mkIIのマスターMIDIチャンネルを選択する場所です。選択可能な値は1~16です。青色のチェックマークが付いている値を選択しています。



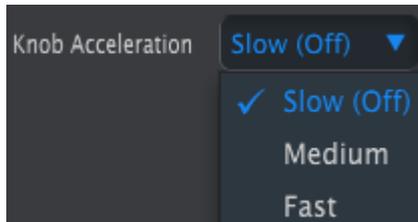
キーボードMIDIチャンネル・メニュー

このパラメーターは、キーボードに設定されているコントロールに影響を与えます。これについては [MIDIチャンネルセッティング \[p.27\]](#) で説明しています。

 注： MiniLab mkIIのフロントパネルからもキーボードMIDIチャンネルを選択することが可能です。シフト・ボタンを押し、番号の付いた鍵盤の1つを押すだけです。

4.7.2. ノブ・アクセラレーション

パラメーター値を最小値から最大値に変更するために必要なノブの回転数を3種類の設定から指定することができます。

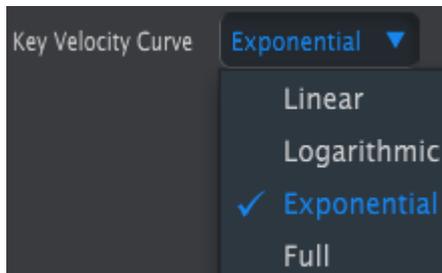


ブアクセラレーション・メニュー

青色のチェックマークが付いている値を選択しています。

4.7.3. キーベロシティ・カーブ

キーボードのレスポンスを以下の4種類の設定から選択することができます。

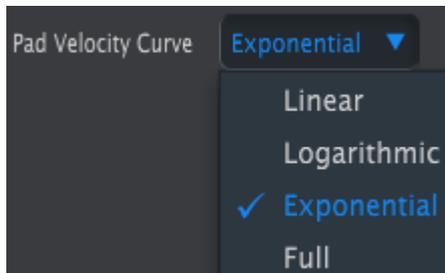


キーボードベロシティカーブ・メニュー

青色のチェックマークが付いている値を選択しています。“Full”に設定すると鍵盤を押す度にベロシティの最大値（127）で再生されます。

4.7.4. パッドベロシティ・カーブ

キーボードのレスポンスをパーソナライズするには、これら4種類のいずれかを選択してください。



キーボードベロシティカーブ・メニュー

“Full”に設定すると鍵盤を押す度にベロシティの最大値（127）で再生されます。

テンプレートのコントローラー・セッティングのエディットを再開するにはコントローラーマップ・タブをクリックしてください。

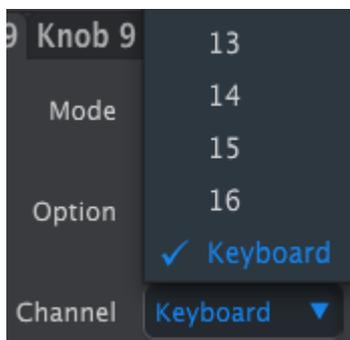
4.8. テンプレートのエディット：ユニークな機能

コントローラーとパッドのパラメーターの大部分は、MIDIコントロールセンター・ユーザーズマニュアルで詳しく説明されています。ここでは、MiniLab mkII固有のものについてのみ解説します。

MCCユーザーズマニュアルの検索方法については、[マニュアルを探す \[p.19\]](#)を参照してください。

4.8.1. MIDI Channel セッティング

すべてのコントロールとパッドにMIDIチャンネル・パラメーターがあります。しかしそこには17の値があります。：チャンネル1~16とキーボード



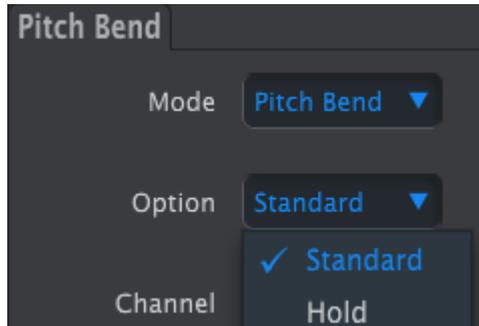
MIDIチャンネル選択メニュー

“キーボード”オプションでは、キーボードのMIDIチャンネル設定を変更する時にこのコントロールのMIDIチャンネルも変更することが可能です。

したがって、各コントロールやパッドが特定のMIDIチャンネルにロックされているか、キーボードのMIDIチャンネルとなるよう“フロート”するかを選択することができます。

4.8.2. コントロールストリップ：ピッチベンド・ホールド

物理的なピッチベンドホイールは、通常スプリング方式なので、手を放すと常に中央に戻ります。しかし、一番左のコントロールストリップは、このパラメーターを使用してどちらの方法でも設定することができます。：



ピッチベンド設定メニュー

この設定は、各プリセットと一緒に保存されるため、プリセットの必要に応じて設定を行うことができます。

4.8.3. アサインابل・ペダル

MiniLabのペダル入力は、ラッチ式、またはモメンタリー式のスイッチタイプのペダル用に設計されており、MCCを使用して様々な方法で設定可能です。

設定をエディットするには、エディターウィンドウの上部にあるサスティンペダル・コネクターのグラフィックをクリックしてください。：



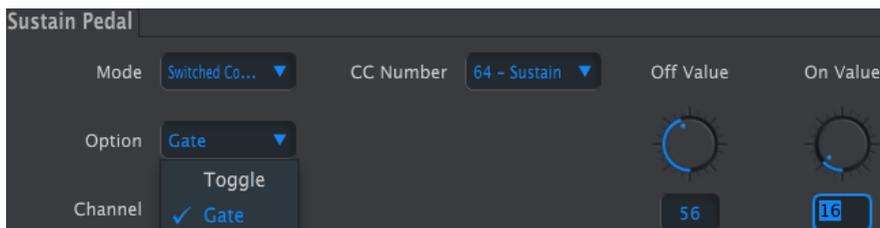
アサインابلペダル入力

コントローラーの入力を選択すると、4つのプルダウンメニューと2つのノブがあるウィンドウが表示されます。矢印をクリックするとメニューが開き、様々なオプションが表示されます。：

- **Mode** Switched Control、またはMIDI Note
- **Option** Toggle（ラッチ）、またはGate（モメンタリー）
- **Channel** 1-16、または Keyboard
- **CC Number** 0~127の間のMIDI CC#をお好みで使用可能

Off ValueとOn Valueノブは、ペダルの最小値と最大値の範囲を設定することができます。例えば、ペダルを使用してモジュレーション・メッセージを送信している場合、オフ値（Off Value）として0以外の値を、オン値（On Value）として適度な値を設定することができます。

これらのフィールドを使用してオフ値に高い値を、オン値に低い値を設定して、ペダルの操作を反転させることも可能です。



サスティンペダル・オプションとOn/Off Valueフィールドの入力例

4.8.4. モード・エンコーダー

4.8.4.1. モード・コントローラー

- **Absolute** : Analog Labの初期設定 : ノブは、0-127の絶対値を送信します。
- **Relative 1** : ノブをネガティブの方向に回すと61~63の値を送り、ポジティブの方向に回すと65~67の値を送ります。回転速度がパラメーターのレスポンスを決定します。
- **Relative 2** : ノブをネガティブの方向に回すと125~127の値を送り、ポジティブの方向に回すと1~3の値を送ります。回転速度がパラメーターのレスポンスを決定します。
- **Relative 3** : ノブをネガティブの方向に回すと13~15の値を送り、ポジティブの方向に回すと17~19の値を送ります。回転速度がパラメーターのレスポンスを決定します。

 Relativeモードの2、3はAnalog Labでは使用できません。他のMIDIデバイスやソフトウェアとの互換性のために提供されています。これらの設定を使用するかどうかについては、使用するデバイス、やソフトウェアのマニュアルを参照してください。Relativeモードでは、各値の間に“ニュートラルポジション”メッセージ(00)が送信されません。

4.8.4.2. NRPN/RPNモード

- **NRPN** : Non-Registered Parameter Numbersの略で、割り当てられていないMIDI CCナンバーを使い、より多くのパラメーターにアクセスするために使用します。LSB / MSB フィールドを使用してコントローラー・ナンバーを指定します。この場合最小値/最大値は無視されます。

特定の設定に関しては、使用するデバイスのマニュアルを参照してください。

- **RPN** : Registered Parameter Numbersの略で、ピッチベンド・レンジやチューニング等の特定のパラメーターをコントロールします。LSB / MSB フィールドを使用してコントローラー・ナンバーを指定します。この場合最小値/最大値は無視されます。

RPN/RPNモードでは、“データエントリー”パラメーターが以下に説明するようにエンコーダーのステップを設定します。

- 1:128 各エンコーダー・ステップ128ジャンプを生成 (粗い)
- 1:64 各エンコーダー・ステップ64ジャンプを生成
- 1:32 各エンコーダー・ステップ32ジャンプを生成
- 1:16 各エンコーダー・ステップ16ジャンプを生成
- 1:8 各エンコーダー・ステップ8ジャンプを生成
- 1:4 各エンコーダー・ステップ4ジャンプを生成
- 1:2 各エンコーダー・ステップ2ジャンプを生成
- 1:1 各エンコーダー・ステップ1ジャンプを生成 (ファイン)

 注 : データエントリーを1:1 (ファイン) に設定した場合、最大値に達するまでにより多くノブを回さなければなりません。

5. ソフトウェア使用許諾書

ライセンス料金（あなたが支払った金額の一部）を考慮し、Arturiaはライセンサーとしてあなた（被ライセンサー）にAnalog Lab Lite ソフトウェア（以下、ソフトウェア）のコピーを使用する非独占的な権利を与えます。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、Arturia SA（以下、Arturia）に帰属します。Arturiaは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEM ソフトウェアによるレジストレーションの後に、使用可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重にいかのテキストをお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権

お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。Arturiaはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限

お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、Arturiaへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用に興味を持たないものとします。Arturiaは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション

Arturiaは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンスをコントロールしOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。

このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。セクション11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、アップデート

サポートアップグレード、アップデートを受けることができます。サポートは新バージョン発表後1年間、前バージョンのサポートを提供します。Arturiaは、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の性質をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に調整することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。

このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メールアドレス、ライセンスデータなど）に同意するよう求められます。Arturiaは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限

お客様は、常に1台のコンピューターで使用することを前提として、一時的に別のコンピューターにインストールして使用することができます。お客様はネットワークシステムなどを介した複数のコンピューターに、ソフトウェアをコピーすることはできません。お客様は、ソフトウェアおよびそれに付随する物を複製して再配布、販売等をおこなうことはできません。お客様はソフトウェアもしくはそれに付随する記載物等をもとに、改ざん、修正、リバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイル、翻訳などを行うことはできません。

6. 権利の譲渡

本ソフトウェアを使用するためのお客様のすべての権利を(a)第三者に割り当てる場合、(i)本契約と (ii)本ソフトウェアに付属のソフトウェア、またはハードウェア（すべてのコピー、アップグレード、バックアップコピー、および本ソフトウェアのアップデート、アップグレードの権利を付与された旧バージョンを含む）(b)このソフトウェアのアップデート、アップグレード、バックアップコピー、及び以前のバージョンを保持せず (c)受領者は、本契約お条項、及び有効なソフトウェアライセンスを取得するためのその他の規則に同意するものとします。

本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返品権利の譲渡後、製品をアクティベーションすることがあってはなりません。

7. アップグレードとアップデート

ソフトウェアのアップグレード、及びアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョン、または下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョン、下位バージョンを転送した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレード、及び最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョン、及び下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証

Arturiaは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。Arturiaは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償

Arturiaが提供する補償はArturiaの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、Arturiaにソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責

上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。Arturiaまたは販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行ったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害補償の制限

Arturiaは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害（仕事の中断、損失、その他の商業的損害なども含む）について、Arturiaが当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。

6. DECLARATION OF CONFORMITY

USA

Important notice: DO NOT MODIFY THE UNIT!

This product, when installed as indicate in the instructions contained in this manual, meets FCC requirement. Modifications not expressly approved by Arturia may avoid your authority, granted by the FCC, to use the product.

IMPORTANT: When connecting this product to accessories and/or another product, use only high quality shielded cables. Cable (s) supplied with this product **MUST** be used. Follow all installation instructions. Failure to follow instructions could void your FCC authorization to use this product in the USA.

NOTE: This product has been tested and found to comply with the limit for a Class B Digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide a reasonable protection against harmful interference in a residential environment. This equipment generate, use and radiate radio frequency energy and, if not installed and used according to the instructions found in the users manual, may cause interferences harmful to the operation to other electronic devices. Compliance with FCC regulations does not guarantee that interferences will not occur in all the installations. If this product is found to be the source of interferences, witch can be determined by turning the unit "OFF" and "ON", please try to eliminate the problem by using one of the following measures:

- Relocate either this product or the device that is affected by the interference.
- Use power outlets that are on different branch (circuit breaker or fuse) circuits or install AC line filter(s).
- In the case of radio or TV interferences, relocate/ reorient the antenna. If the antenna lead-in is 300 ohm ribbon lead, change the lead-in to coaxial cable.
- If these corrective measures do not bring any satisfied results, please the local retailer authorized to distribute this type of product. If you cannot locate the appropriate retailer, please contact Arturia.

The above statements apply **ONLY** to those products distributed in the USA.

CANADA

NOTICE: This class B digital apparatus meets all the requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulation.

AVIS: Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

EUROPE



This product complies with the requirements of European Directive 89/336/EEC

This product may not work correctly by the influence of electro-static discharge; if it happens, simply restart the product.